

色と形によるグアテマラのマヤ先住民の世界 ～色彩コラージュを用いて～

佐藤 仁美¹⁾

The world of Mayan indigenous people of Guatemala in colors and forms ～By means of color collage～

Hitomi SATOH

要 旨

本研究は、グアテマラのマヤ先住民の世界観を、色彩コラージュを用いて、色と形からアプローチしようとする試みである。マヤ先住民の織は、母から子へと受け継がれ、衣装 (huipil) は、民族ごとに多種多様な色鮮やかな色と形で表現されている。Huipilの色と形は、出身地や年齢などを意味し、異なる民族同士の大切なコミュニケーションツールのひとつを担ってきた。このhuipilの(無言の言語としての)在り方は、芸術療法における視覚的コミュニケーションに関連があると考えた。そこで、色彩コラージュを用いて、グアテマラのマヤ先住民の色と形について調査をした。手順は以下の通りである。①27色の折り紙の中から5色を選択してもらう、②色彩コラージュを作成、③コラージュに用いられた色のイメージをインタビューする。調査期間は、2017年8月27日から9月19日、9地域で56名のマヤ先住民に協力を得た。コラージュ表現において、さまざまな形でマヤの世界観が表現された。コラージュ表現は地域によって作風が異なったが、色彩に対して共通イメージがあった。特徴的な例としては「赤のイメージは血」、「金色のイメージは太陽」などがあった。赤も金も、マヤの世界観に重要なものである。

キーワード：グアテマラ マヤ 色 形 色彩コラージュ ウィピール 視覚的コミュニケーション

ABSTRACT

This study is a trial approach to the worldview of Mayan indigenous people of Guatemala in color and form by means of color collage. The textile of Mayan indigenous people is inherited from mother to child, and clothes (huipil) are expressed in a great variety of colors and forms which differs from one community to another. The color and form of huipil signifies one's hometown and age, and are used as one of the important communication tools between different communities. The way in which this huipil is used as a communication tool is similar to the visual communication method used in artistic treatment. Therefore I investigated colors and forms of Mayan indigenous people of Guatemala by means of color collage. The procedure was as follows ; (1) Asking a participant to choose five colors from 27 colors of origami, (2) Asking the same participant to make a color collage, and (3) Inquiring the image of the colors used in the collage to the participant.

The investigation was conducted between August 27 and September 19, 2017. 56 Mayan indigenous people in nine areas within Guatemala participated in the research. They expressed the Mayan worldview in various forms in their collages. Their collage expressions varied in style by areas. However, their color image had a commonality, such as : "the image of red is blood", and "the image of gold is the sun." Both red and gold are important colors in the Mayan worldview.

Key words : Guatemala, Maya, color, form, color collage, huipil, visual communication

¹⁾ 放送大学准教授 (「心理と教育」コース)

I. はじめに

グアテマラの人口は約1,658万人（2016年世銀）、マヤ系先住民46%、メスティソ（欧州系と先住民の混血）・欧州系30%、その他24%（2011年 国立統計院推計）であり、言語は、公用語であるスペイン語の他に22のマヤ系言語がある。各民族には、それぞれの土着言語があり、共通言語もあるが、独特な言語体系が存在し、マヤの人々は、身につける衣装によって、互いの出身地・年齢などを含む背景を理解していたといわれる。衣装の特徴は、民族ごと独特で、多種多様な色鮮やかな色と形とその組み合わせにより表現されている。1枚の布の中には、マヤの世界観が込められていると換言できよう。染織・衣装は、大切なコミュニケーションツールのひとつを担い、言語の補完機能を担ってきたともいえる。

古来、マヤ先住民の女性たちの生活の一部に、染織が含まれており、日々、コミュニケーションの場にもなっていたという。今でこそ、機械産業の進出・導入により、市販製品に身を包む女性たちも増えてきたが、かつては、女性の誰もが日課で織っていたという。機織りは、「料理、掃除、育児、畑仕事や家畜の世話の手伝いととも家庭での女性の役割」だった（Hecht, 2001/2003）。時を経て、村同士の交流が進み、互いの染織技術を交換したり、それを融合することにより、さまざまな展開を成し、衣装の色と形も変化し続けている（Green, 2009）。この衣装を通しての交換・融合は、異なる言語をもつ者同士が共通言語を持つことにもつながり、対人関係を発展させるコミュニケーションと考えられるだろう。

心理臨床において、クライアントとセラピストのあいだには、さまざまな心の交流のための技法が存在する。言語を用いたやり取りに困難を来した場合など、クライアントの描画などの造詣から身体表現まで、あらゆる表現が気持ちを伝える手段として用いられている。そこには、両者が共有できる時間と空間（守られた空間）、共通言語・共通意識なるものの存在がベースとなっている。受け取り手であるセラピストにおいては、クライアントの意図を組み、受けとめ、確認をし、理解を深めていくために、“視覚的コミュニケーション”（徳田, 1971）の考え方が必要とされる。この視覚的コミュニケーションを応用し、文化の異なる民族との対話に媒介を用いることで、相互理解につながられるのではなからうか。

本研究では、グアテマラ民族間での交流に用いられてきた、衣服（布）における色と形に着目し、異なる表現手段を用いても、①民族差が表れるのか、②先住民に共通した表現は表れるのか、について調査することとした。

II. マヤの世界観

マヤの世界観は、キチュのマヤ創世神話『ポボル・ヴフ』によると、神によってトウモロコシから人間が創られ、バカブという神々が世界の四方に存在し、四隅にはカハ・チューという天空の杭が打たれ、四隅が支えられていると考えられていた。マヤの人々は自分たちの住む大地のほか、13層の天上界と9層の地下界があり、大地は海に浮かぶワニの背中やカメの甲らと考えていた。実松（2016）は、「ツォツィル族の世界観によれば空間としての世界は四角形をしている」と読み解いている。

マヤの世界観には、色彩も大きく関与しており、東は赤、西は黒、北は白、南は黄、世界の中心は緑と、5色が基本となっている。マヤの人々は、この5色をさまざまな色と形で身に纏うことによって、世界を纏っているという。グアテマラの主食であるトウモロコシには、白・黄・赤・黒（青）の色が存在し、方位を表わす5色に重なる。「マヤの人々は、トウモロコシから力を得ている。トウモロコシを食べないと力がわかない」（ドローレス, 2016/2017）。ここに、『ポボル・ヴフ』による人間創造の軌跡が読み取れる。また、現地の女性たちの語りより、トウモロコシは、おめでたい時には黒いトウモロコシを用いた料理をするなど色の用途があるとのことであった。

マヤの女性たちが上着（ブラウス）として身に纏うウィピール（huipil）は、伝統的な女性の貫頭衣で、基本長方形の織物を2～3枚はぎ合わせ、首部分を丸くくり抜いていることが多い。織物に使われた色にも、「宗教的な意味が秘められていたと推測されている」（カルラ/小林, 2017）。紋様や形状は自治体によって異なり、同じ民族であってもしばしば村ごとに異なる。首回りは重要な部分で、その土地の自然を織り込んだり、刺繍をして世界を作り上げている。首回りの装飾には、円環・渦巻きなどがさまざまな形で連続して連ねられ、「マヤカレンダー、時間を表現している」（ドローレス, クラリベル, カルラ/小林, 2017）。

上記のように、マヤの人々にとって、色と形は身近な存在であり、有形無形となって生活の中に流れていると推測される。とくに、円・四角・方位の5色は重要と考えられる。

III. 調査地域の特徴

調査対象として、①日常、民族衣装を身につけている地域であり、実際に織手や染手がいること、②自然の特徴である山間部、あるいは湖畔の地域、民族衣装を身につけながらも都市化の発展がある地域のいずれか、の2条件を満たすこととした。現地調査では、都市化発展中ではあるが、民族衣装を日常的に身につけた織手の存在するサカテペケス県San Antonio Aguas Calientes、火山と湖など自然豊かなアティトラン湖

畔のソロラ県Santiago Atitlan, San Juan la laguna, Sanantonio palopoの3地域, 山間部に位置するコバン地方のアルタ・ベラパス県San Juan de Chamerco, Tacticの2地域, キチェ県Ixil地方のNebaj, San Juan Cotzual, Aculの3地域, 計9地域で, 織り手家族中心に協力を得た。調査を行った対象地域の位置関係と特徴的な民族衣装を表1に示す。以下, 各地域の特徴を記す。

<都市化発展中地域>

サカテペケス県 (西: Departamento de Sacatepéquez)

サカテペケスは温暖な気候で山が多く, 活火山と休火山が連なり, アグア火山・フエゴ火山等に囲まれている。グアテマラの国家果物であるウルシ科オコテ栽培でも知られる他, 果物・トウモロコシを含む作物, 南部ではコーヒー・砂糖・タバコ・綿産を主流とする。

San Antonio Aguas Calientesは, カクチケル (Kaqchikel) 族の町で, マヤの多様な織物や刺繍の中でも最高のレベルとされる美しく手の込んだ織物で知られる。以前は, マヤの民族衣装を着た人が多いひなびた村だったが, 現在は小さな町となり, 民族衣装を身につける人も減少している。織り手は, 後帯機を用いて伝統的パターンを織り込んでいる (表1)。

<火山と湖のある地域>

アティトラン湖周辺地域/ソロラ県 (西: Departamento de Solola)

アティトラン湖は, 周囲をアティトラン火山 (3,537m), トリマン火山 (3,158m), サンペドロ火山 (3,020m) 等の緑の山々に囲まれた世界で一番美しい火山湖として知られている。アティトラン湖畔には, 各々異なる民族衣装や風俗を持つ先住民の村落が点在し, 村間はボートによる湖上交通が主流である。

Santiago Atitlánは, サンペドロ火山とトリマン火山を湖岸に持つアティトラン湖南岸に位置し, 湖畔町村の中でも比較的大きな村である。主にマヤ先住民が住み, 元々, Chuitinamitという名のツトゥヒル (Tz'utujil) 族の土地であった。Atitlánは, ツトゥヒル語で「鳥の家」を意味するごとく, 豊かな自然に多くの野鳥が生息している。マヤ宗教の色濃く残る地域であり, 守護神: マシモンが祭られている。この村では, 白地にストライプの入ったウィピール (表1) が有名で, 色数豊富な刺繍模様も見事である。

San Juan La Lagunaは, アティトラン湖南西岸の村で, 95%がツトゥヒル族である。農業中心ではあるが, 観光化も進み, 観光収入も上がりつつある。中でも織物が主産業で, 多くの工房や土産物屋が立ち並ぶ。元々天然染色, 手織りが有名だったが, 先進国の支援により高質でデザイン性に優れ, 色鮮やかな他地域の織物と比して淡い色も用いられ, 洗練されてきた。

San Antonio Palopóは, アティトラン湖の東部岸に位置する, カクチケル (Kaqchikel) 族の村で, 湖畔から急斜面に沿って家々が立ち並び, 湖や火山の自然豊かな美しい景観が眺められる。この村では, 青をベースに細かく色を施したパロポ焼きという陶器が有名であり, 青や紫の糸を使った青を基調としたウィピールが特徴的である。

<山間部>

キチェ県 (西: Departamento de Quiché)

グアテマラで人口の多い県のひとつで, 大方はマヤの後裔でしめられる。先住民のほとんどがキチェ語を話す, Nebaj, Chajul, San Juan Cotzualではイシル語 (Ixil) を話す。中央高地やクチュマタネス山地, チュアクス山地, 南西部の火山地帯の山地が総面積の79%, 北部に広がる熱帯低地が21%をしめる。生活は, 換金作物のトウモロコシのほか, ジャガイモ・モモ・リンゴ・コーヒーなども栽培している。宗教は, カトリック教徒とされているが, 実際には現地に伝わる神々を信仰している。

アルタ・ベラパス県 (西: Departamento de Alta Verapaz)

グアテマラ北中部に位置し, 県都は最大都市コバンである。地形・気候に関しては, 北部が低く南部が高くなっており, 気候は標高に応じて異なる。県南東部にはラス・ミナス山脈 (2,375m) が東西に走る。県都コバンの標高は約1,500m, 湿度は高く, 霧と小雨の混じったような天候が続く。北部低地は高温で極端に多湿で, 雨季と乾季 (2~4月) の区別はあるが, 乾季は他地域に比べて短い。カアボン川とポロチク川の2つの川が東に向かって流れ, イサバル県で合流し, イサバル湖に注ぐ。雲霧林が発達し, グアテマラの国花モンハ・ブランカや, 国鳥ケツツアルが生息する。2011年の統計によるとアルタ・ベラパス県の人口は111万9823人で, ケクチ (Q'eqchi') 族が79.1%を占め, 先住民以外は10.3%である。ケクチ族のほかにポコムチ族も住む。

ケクチ族は, 2011年の統計によるとグアテマラ全人口の8.3%を占め, キチェ族についで多い。多くは農民で, トウモロコシ・豆・唐辛子などを栽培して自給自足的な生活を送っている。地域によってはイネやカエルダモン, ブタなどを商品作物として育てている。

伝統的なマヤ信仰はカトリックの教えと融合し, 聖人崇拝や仮面舞踏の形で残る。またツールタカ (Tzuultaq'a, 山谷) という土着の神々があり, 特に13のツールタカが重要とされる。祭儀では蠟燭を燃やしたりコバルを炊いたり, 七面鳥などの動物を生贄として捧げる。ツールタカの神殿や遠くチキムラ県エスキプラスの黒いキリストを巡礼することもある。

IV. 色彩コラーージュの試み

マヤの人々にとって, 色と形は身近な存在であり,

有形無形の色と形が生活に息づいていることから、本研究においては、マヤの空間表現を色と形で捉える試みとして、折り紙を用いたコラージュ制作と簡易インタビューを行い、先住民の子どもたちを中心に、どのような世界観を持っているのかアプローチすることにした。

調査期間) 2017年8月27日～9月19日

対象) グアテマラ国内の多くの人口を占める4先住民族：カクチケル族・ツトゥヒル族・イシル族・ケクチ族。カクチケル族は、民族衣装の着用の残るものの、近代化も進学率も進み、都会的文化の代表として選択した。ツトゥヒル族は、湖と山を中心とした自然豊かな環境でマヤ宗教の色濃く残る特徴、イシル族・ケクチ族は、閉鎖的な山間部の異なる文化地域として選択した。

方法) 直径約21cmの円形白画用紙と、1辺18.6cm正方形台紙(双方とも筆者が採寸-カッティングし作成したもの)を台紙とし、2種を並べて提示し、円台紙か正方形台紙かのどちらかを選択した上、教育用折り紙セット27色(あか・だいだい・きだいだい・やまぶき・き・クリーム・むらさき・ふじ・ピンク・うすピンク・パールオレンジ・こん・あお・みず・うすみず・ふかみどり・みどり・きみどり・きん・ぎん・こげちゃ・ちゃ・おうど・しろ・ねずみ・くろ)の中から使いたい5色を選択し、自由に切り貼り構成する。完成後、全体のイメージ(テーマ)と、選択した色のイメージを尋ねる。

マヤの宇宙観をもとに、台紙は正方形と円形の2種類を用いることとし、台紙のサイズは、円台紙の大きさを、マヤ女性のウィピールの首回り直径21cmと同サイズに設定し、面積(約346cm²)を算出し、ほぼ同面積となるよう、正方形台紙の一辺を定めた。

色彩構成には、マヤの基本は5色であることになぞらえ、対象者の基本5色を選択してもらったこととした。

V. 結果と考察

カクチケル族・ツトゥヒル族・イシル族・ケクチ族の4民族より3～55歳の男女、内訳：カクチケル族7名(男性5名、女性2名)・ツトゥヒル族18名(男性10名、女性8名)・イシル族18名(男性8名、女性10名)・ケクチ族8名(男性3名、女性5名)、計男性26名、女性30名の協力を得た。

地域別内訳は、San Antonio Aguas Calientes 7名(男性3名、女性4名)、San Juan la laguna 4名(男性2名、女性2名)、Sanantonio palopo 1名(女性1名)、Santiago Atitlan18名(男性10名、女性8名)、San Juan de Chamerno 3名(男性2名、女性1名)、Tactic 5名(男性1名、女性4名)、Acul 5名(男性2名、女性3名)、Nebaj 6名(男性3名、女性3名)、San Juan Cotzual 7名(男性3名、女性4名)、であった。

グアテマラの学校は、月～土曜日8:30～12:30という時間帯が多いため、調査は、日曜あるいは平日午後後に設定した。協力者のほとんどが、筆者の過去3回のグアテマラ訪問にて顔見知りとなり、通訳者より事前に研究の主旨説明がなされ、承諾を得た上に行った。

1. コラージュに用いられた色

コラージュ制作に選択した5色として、27色中選ばれない色はなかったが、男性は「クリーム」「ピンク」「うすみず」、女性は「きだいだい」「こん」「ねずみ」を選ばなかった。男女ともに多く選ばれた色は、「あか」37名(男性21名、女性16名)、「きん」37名(男性20名、女性17名)、「ぎん」28名(男性15名、女性13名)、「きみどり」20名(男性9名、女性11名)、次いで好まれる男性選択の色は、「だいだい」「むらさき」「くろ」3色ともに8名、女性選択の色は、「ピンク」13名、「だいだい」10名であった(表2, 図1-1)。

制作後に尋ねた色彩イメージにおいては、全体的

表2 選択した5色 (数は選択数)

| | 男性 | | 女性 | | 計 | |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| あか | 21 | 29 | 16 | 26 | 37 | 55 |
| だいだい | 8 | | 10 | | 18 | |
| きだいだい | 1 | 9 | 0 | 13 | 1 | 22 |
| やまぶき | 1 | | 6 | | 7 | |
| き | 7 | | 6 | | 13 | |
| クリーム | 0 | | 1 | | 1 | |
| むらさき | 8 | 11 | 7 | 32 | 15 | 43 |
| ふじ | 1 | | 5 | | 6 | |
| ぼたん | 1 | | 3 | | 4 | |
| ピンク | 0 | | 13 | | 13 | |
| うすピンク | 1 | | 4 | | 5 | |
| パールオレンジ | 2 | 2 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| こん | 1 | 11 | 0 | 10 | 1 | 21 |
| あお | 5 | | 3 | | 8 | |
| みず | 5 | | 5 | | 10 | |
| うすみず | 0 | | 2 | | 2 | |
| ふかみどり | 4 | 15 | 3 | 17 | 7 | 32 |
| みどり | 2 | | 3 | | 5 | |
| きみどり | 9 | | 11 | | 20 | |
| きん | 20 | 35 | 17 | 30 | 37 | 65 |
| ぎん | 15 | | 13 | | 28 | |
| こげちゃ | 2 | 4 | 2 | 5 | 4 | 9 |
| ちゃ | 1 | | 1 | | 2 | |
| おうど | 1 | | 2 | | 3 | |
| しろ | 2 | | 1 | | 3 | |
| ねずみ | 5 | 15 | 0 | 5 | 5 | 20 |
| くろ | 8 | | 4 | | 12 | |

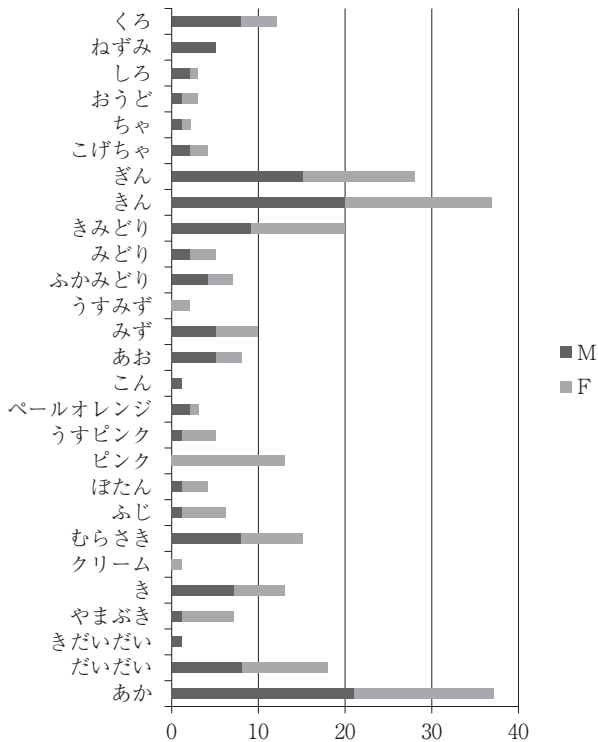


図1-1 選択した5色 (M:男性 F:女性)

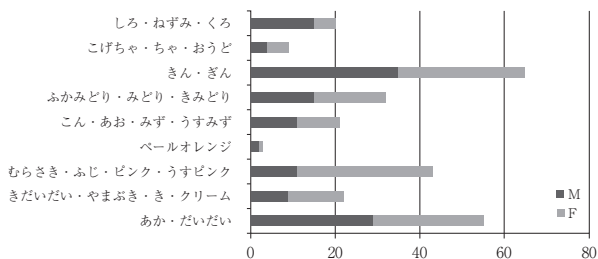


図1-2 選択5色の分類 (M:男性 F:女性)

に、同色系の色には似通ったイメージを持つことが多く、「あか・だいたい」「きだいだい・やまぶき・き・クリーム」「むらさき・ふじ・ピンク・うすピンク」「パールオレンジ」「こん・あお・みず・うすみず」「ふかみどり・みどり・きみどり」「きん・ぎん」「こげちゃ・ちゃ・おうど」「しろ・ねずみ・くろ」とまとめることができる(表3, 図1-2)。これより、色彩の濃淡はあるもののマヤの基本5色が多く選択されていた。

2. 色彩コラージュの特徴

各地域の色彩コラージュの特徴的例を、表1に示す。

San Antonio Aguas Calientesでは、男女ともに幾何学模様での構成が主流で、画面いっぱいに貼りわせる特徴がある。ウィピールの緻密さとの関連も想像できる。被験者の中には、「学校の授業で新聞を切り抜いてcollageを作成したことがある」者(男性2名: 10・12歳)もあった。女性2名(16・19歳)も手際よ

く切り貼り重ねて、余白がない表現をしている構成には、学校等で指導を受けた経験があると推測される。

アティトラン湖畔3地域においては、San Juan La Lagunaの男性2名(8・10歳)、Santiago Atitlanの男性1名(7歳)が顔表現、Sanantonio palopo女性1名(9歳)とSantiago Atitlan男性9名(4・5・7・8・9・11・13歳各1名, 10歳2名)、女性6名(5・6・10歳各1名, 7歳3名)は、生活周辺の空間を表現する特徴があった。また、Santiago Atitlanの切り貼りは、他地域に比べて細かく、器用にフリーハンドで鋏を使って形を作り、独自の世界を展開していた。

Santiago Atitlanでは、コレテ(女性の巻スカート)となる緋工房(染織全工程を行う工房)の職人の子もたちが対象であった。コレテの緋には、グアテマラの織に用いられるモチーフのほとんどが表現されており、1枚の布の中には、生活のすべて、古くから土地に伝わる伝承・民話などが織り込まれている(カマロン, 2017)。こういった環境のなかで育つ要因も大きいですが、携わる大人が、マヤの文化が廃れないよう、放課後に子どもたちに古来の文化を伝える教育をする努力をしていることも聞きとることができた。

山間部に暮らすイシル族においては、Aculの女性3名(25・26・55歳)は、ウィピールのモチーフに用いる馬・鳥などの再現があり、男性2名(8・9歳)は、幾何学模様の中に貼り重ねていく特徴がある。男女ともに、台紙に形作る前に筆記具で描き、その形にあわせて折り紙をはめ込むように切り貼りしていく特徴があった。織り手は、織模様の構造は頭の中にあって、手本や組織図・テキストのようなものは存在しない。マヤでは、古くから母・祖母から子・孫へと織が受け継がれている(リディア, 2016)。Aculの女性において、織とコラージュとの作成プロセスの違いを垣間見た。しかしながら、サンプル数が少ないため、今後の追調査が必要である。

Nebajは、枠外にはみ出している表現が多く、立体構成も見られる。男性3名(7・10・12歳)とともに立体作品で、動きを強調していた。3歳女性は兄に船を折ってもらい切り貼りし、12歳女性は、円枠に沿って1周花びらをつけて花を作った。Nebajは発想が自由で、のびのびと作成する特徴があった。

San Juan Cotzualでは、男女ともに、他地域に比べてシンプルな形状構成を行い、女性3名(10・17・23歳)は、具体的な家や人を作っていた。San Juan Cotzualの織は緻密で、幾何学模様と鳥や花のモチーフが布いっぱいに織り込まれている。「すき間のない織表現は、外からの邪気が入らぬように」(カルラ, 2014, 2017)の意があるが、身につけるマヤの世界そのものの織と、身にはつけず作り見るものとしてのコラージュでは、同じ色と形を表現するものであるが、マヤの人々にとっては大きく意識が異なることが感じられた。

同じ山間部でもケクチ族においては、San Juan de Chamercoは男女3名(いずれも9歳)とも顔を作り、

ともに台紙から大きくはみ出す表現をしている。立体的ではみ出しがあることは、イシル地方のNebajの特徴に近い。

Tacticではハート型はあるものの、抽象的な色と形での構成が主流であり、San Antonio Aguas Calientesの9・10歳の女性の幾何学構成に似ていた。San Antonio Aguas CalientesとTacticは、織の特徴として、どちらの地域も全面に模様を織り込む共通した特徴がある。そういった織に日常的に触れている影響も考えられるが、Tacticは、3～9歳の子どもたちと、他地域に比べて年齢層が低いいため、年齢層をあげて、今後の調査が必要である。

3. 台紙のあり方

台紙選択は、円：男性19名、女性17名、計36名、正方形：男性7名、女性13名、計20名、と円台紙の方が多く好まれた。マヤの宇宙観・世界観にそのまま関連付けるのも早急すぎるものの、円台紙を迷いなく巧みに使いこなせた事実は、円形がマヤの人々に受け入れやすいものであることが感じられた。また、正方形でのコラージュ作成は、他の場面で用いたことはないが、従来の長方形台紙とは、作成に異なるメカニズムも考えられる。今後の課題としたい。

台紙を一つの形象とし、それをどう活用するかに関しては、円形も正方形も、その形を活用した顔表現が、男性5名、女性2名あり、男性の内2名は正方形を輪郭に用いていた。通常、台紙は、守られた空間として、その上に自由に表現されるものだが、今回の作成では、7名が表現対象としての活用となり、新たな台紙の役割を感じさせる。これには、雑誌等の材料を用いたコラージュとは異なる、色彩素材のみで行うコラージュの特徴があると考えられる。

雑誌等対象の形状のある程度はしっかりしたものを切り抜いて「台紙に貼る」という行為は、色彩コラージュにおいては薄れる感がある。実際、調査上のデータに上がらなかったサンプルが3名分あるが、3名とも、台紙を折り紙同様にハサミを入れ、新たな台紙を求めるといったことが起こった。新たな台紙を渡したが、さらに、切込みを入れるなどして立体的な工作に発展し、台紙としての機能は薄れていった。折り紙と台紙の厚さの差はかなりあるものの、切り抜くものも台紙も同じものとして認識になったようだ。

4. 作品イメージの特徴

コラージュ作品の全体イメージ（テーマ）を尋ねたところ、男性は26名中7名、女性は30名中9名が、「ここにあるものすべて」「地球」など生活～世界観を表象している題名をつけた。また、「愛」「～を守る～」などの表現を含めると、半数近くが何らかの世界観を表していることになる。マヤでは自然と自己の一体感が強く、また、布の中で世界観を表す文化は、紙

上と表現の場が変わろうとも、通底する表象は共通するものと思われる。

その中で特徴的だったのは、Santiago Atitlanの子どもたちであった。「虹のお話」「蝶々のお話」など、物語的イメージを題名づけ、コラージュ作品も、登場人物等の表現は、具体的表現から抽象表現までさまざまながらも、ストーリー性のあるものが多かった。これも、色彩コラージュの特徴同様、緋の中に織り込まれた世界観がベースになっていると考えられる。

4. 色彩イメージの特徴

コラージュ制作に選択した5色各色のイメージは、生活・環境に即した回答が多かった（表3）。

青系は、「空」「湖」など、緑系は「山」「火山」など自然をイメージすることが多く、「きん」は太陽や光といった自然の表現から、金属系の小物等のイメージもあった。ピンクから紫系は、花をイメージする女子が多い。「あか」「ピンク」などに服の色をイメージするものもあったが、実際にその土地で身につけられている服の色が当てられていた。

民族を越えての共通イメージは「あか」と「きん」に見られた。対象者56名中37名がコラージュに「あか」を用いており、色彩イメージとして「血」という回答が多かった。「血」は、「マヤ人にとって極めて重要な要素」であり、「血が語る」伝説があるなど、誰もが「血の動き、体の感覚によってさまざまなことを理解する」といわれている（実松、2016 p55）。

「きん」には、男女ともに「太陽」、 「ぎん」には、「雲」「道」「月」をイメージする特徴がある。マヤの人々にとっては、太陽は「生命の源」であり、「古代マヤ人にとって最も重要な存在であり、神聖な存在」、月は「太陽と金星に次いで重要な存在であった」（実松、2016）。金銀ともに輝きを象徴するものでもあり、織物においても、光り輝く太陽や月を、表現されている。特に太陽はウィピールの首回りに織り込まれたり、刺繍されることが多く、光の筋が長く大きいほどエネルギーがあり、また、位の高い者が身につけられるという衣装もあるという（カルラ、2017/図2）。実際に出会ったマヤの方々に儀式でしか身につけられないウィピールやその写真を見せていただき、光・輝きへの敬虔な姿勢を感じた。

Santiago Atitlanの祈りの場の一つに「Cerro de Oro（金の丘）」があり、先住民たちには光り輝く宝物が埋められているという言い伝えもあるようである。今回の調査において、子どもたちに縁の深い大人の語りの中でも、豊かさへの憧れ、向上心としての輝きのようなものがあり、その象徴としての金銀とのつながりも示唆された。

5. 空間のとらえと表現の関係

色彩コラージュには、「色でデッサンする」（佐藤、

表3 色彩イメージ ()は回答数

| 色 | 男性 | 女性 |
|---------|---|---|
| あか | 血 (8) 心臓 花 (2) リンゴ (2) ノートの色 おもちゃ シャツの色 愛情 愛 生み出す色 絵を描くこと 赤 | 血 (3) 肌 炎、火山 プーゲンピリア リンゴ (3) 毒 赤いボール 布の色 愛 自分の色 ハート 喜びと悲しみを同時に 幸せの色 |
| だいだい | 太陽 オレンジ (3) ニンジン色 1人の子が絵を描いている | お母さん 花 (2) オレンジ (2) 空気 春 きれい・美しい 平和・静けさ・穏やか |
| きだいだい | 色をぬること | |
| やまぶき | 太陽 光 | 太陽 (3) 雨 食べ物 花 純粹 |
| き | 太陽 (3) コップ 色をぬること | 太陽 輝き 蠟燭の火 バナナ トウモロコシ |
| クリーム | | 赤ちゃん |
| むらさき | 自然 花 塔 (高く高く伸びている) ノートの色 シャツ 幸せの色 紫 | 花 (3) カンパチエの色 ブドウ 恋 心 |
| ふじ | TV | お母さん 女性 子ども 空家 ブドウ |
| ほたん | ピンク | 花 虹 静けさ |
| ピンク | | 花 (5) ビーチ ノートの色 洋服 リボンの髪飾り マスコットのブタ 風景 親しく交わる 愛 |
| うすピンク | 花 | 花 (2) 布 鉛筆 |
| ペールオレンジ | 花 | ナンセの実 |
| こん | 空気 | |
| あお | 空 (2) 湖 (2) 水 | 空 (2) 湖 |
| みず | 空 (2) 水 (2) 塔の先 | 空 (4) 海 雲 |
| うすみず | | 空 (3) |
| ふかみどり | 火山 山 atitlan湖の囲んでいる山の色 葉 | 梨 木 (2) |
| みどり | 自然 木 | 葉 (2) トウモロコシ畑 |
| きみどり | 風景 自然 木 (2) トウモロコシ畑 山 ライム 塔 椅子の色 | 葉 (2) トウモロコシ畑 ライム 植物 (2) 自然 (4) シャツの色 明るい緑 |
| きん | 太陽 (9) 星 金 (3) ダイヤモンド 金貨 サークル 絵を描くこと 黄 | 太陽 (9) 日没の太陽の色 太陽の光 輝き トウモロコシ マンゴー 花 金貨 チェーン 着物 きれい・美しい |
| ぎん | 雲 (2) 雨 虹 道 (2) 地面 鏡・トタン屋根 織物 平和 輝く色 銀 | 月 (2) 水 (2) 大地 空 花 指輪 家の色 鏡のキラキラ 喜び きれい・美しい |
| こげちゃ | 大地 木の家 | 大地 地面 |
| ちゃ | 地面 | 幹 |
| おうど | 鶏 | 素焼きの色・花瓶・壺 オレンジ |
| しろ | 木 空の雲 何か空のようなよいもの | 雲 |
| ねずみ | 雲 日陰 ソウ クリスタル 喜び 悲しみ | 空 |
| くろ | 地面 雲 目みたい髪 風揚げの風 暗闇・闇 きれいなもの 心 | 間髪 (2) 岩 |

2010) 機能がある。マヤの織手も、後帯機を用い、色糸でデッサンしているともいえよう。その環境にあって、マヤの子どもたちには、台紙の形を問わず、色でデッサンすることは、ある程度身近であり、ベースに流れるマヤの心を表現可能ではないか。

マヤの四方位、東=赤、西=黒、南=黄、北=白に象徴される空間表現は、カラージュ表現には視覚的に



図2 ウィピールの首回りの太陽と月
中央の首周りが太陽、左右両側の円が月を模している。

反映されなかったが、色彩イメージにおいては、自然の中にしかりと位置付けた自らの色と形があることが見て取れた。マヤの時間思想の根幹となる誰にも備わるナワル(精神・スピリット・叡智)は、自然との結びつきにある。動植物は、マヤの人々にとって身近であり、双子関係にあるとも考えられる。今後、さらなる対話を重ねることで、表象としての表現を通しての理解を深める試みを続けていきたい。

VI. まとめにかえて、今後の課題

マヤ先住民の空間表現を子どもたち中心に、色彩カラージュと色イメージからアプローチしてきたが、共通イメージもあるが、表現それぞれには、民族・環境・対人関係のあり方・生き方そのものが個性と相まって作り上げられることを実際に目前とした。心理臨床実践において、クライアントの表現に、セラピストは言語を中心に活用して理解に努める。視覚的コミュニケーションの根幹ともいえる理解のためには、その人々の文化を理解できるだけの言語理解を必要とする。今回は、マヤの人々の語りに、通訳を2人以上介さざるを得ず、言語変換において、本来の気持ちを他の言語で表現できないといった言葉の壁にぶち当たった。そういった言語的困難を乗り越えるために、非言語的表現を活用するのであるが、さらなる理解を深めるためには、表現者の言語文化の理解は欠かせないものである。異文化の理解には、そこに息づく言葉をはじめとした文化を肌で感じ、身につけて行く努力が求められる。このことから、心理臨床活動においても、クライアントに対し、どのような世界に身を置いているのか、言葉を含む表現全体を通し、真の意味でセラピストが全身で耳を傾けるとはどのようなことなのか、考えるきっかけとなった。別稿にて深めていきたい。

謝辞

本研究に快くご協力くださったグアテマラの皆様、

現地にて多方面から支えて下さった先生方、コーディネーター兼通訳をして下さった小林グレイ愛子氏に、厚く御礼申し上げます。

文献

- 1) A.ヘクト 近藤修訳 2003 グアテマラの織 大英博物館ファブリック・コレクション デザインエクステンジ (Ann Hecht 2001 Textile from Guatemala The British Museum Press)
- 2) David B.Green 2009 WEAVING SPACE : TEXTILE AND TALES FROM GUATEMALA Mayagrafic Publication
- 3) 徳田良仁・二宮秀子・大村るみ子 1971 イメージと絵画療法 芸術療法Vol.3 13-23
- 4) A. レシーノス (翻訳), 林屋 永吉 (翻訳) 2001 マヤ神話—ポボル・ヴフ 中央公論新社; 改版
- 5) 実松克義 2016 マヤ文明: 文化の根源としての時間思想と民族の歴史 現代書館
- 6) カルラ 2014/2017 Casa de Arte レクチャー
- 7) 小林グレイ愛子 2017 私信
- 8) ドローレス・ラツァン 2016 『色と形を探究する』取材
- 9) ドローレス・ラツァン 2017 聞き取り
- 10) クラリベル 2017 ミニレクチャー
- 11) カマロン 2017 聞き取り
- 12) リディア・ロベス 2016 『色と形を探究する』取材
- 13) 佐藤仁美 2010 色彩コラージュにおける表現空間～構成・構造の視点から～ 放送大学研究年報 第28号 21-29
- 14) <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/guatemala/data.html#section1> 20171026アクセス
- 15) <http://cloudforestconservation.org/knowledge/community/qqchi-maya/> 20171026アクセス (2017年10月3日受理)

表1 調査を行った地域・特徴的な民族衣装と各地色彩コラージュの一例

| | 位置関係 | 土地名・民族名 | 織物 | 色彩コラージュの実例 「テーマ」 |
|----------|--|--|---|---|
| 都市化 | サカテペケス県  | San Antonio Aguas Calientes (織) Kaqchikel |  |  10歳男子 「お月さま」 |
| | | ソロラ県  | San Juan la laguna (染・織) Kaqchikel | |
| アティトラン湖畔 | ソロラ県  | Santiago Atitlan (緋/織・首回り刺繍) Tz'utujil |  |  10歳男子 「太陽と世界」 |
| | | キチエ県  | Acul (織) Ixil |  |
| 西部山間部 | キチエ県  | Nebaj (織) Ixil |  |  10歳男子 無題 |
| | | San Juan Cotzual (織) Ixil |  |  9歳女子 「周りの住んでいるところ」 |
| | | アルタ・ベラパス県  | San Juan de Chamerco (織・刺繍) Q'eqchi' |  |
| 東部山間部 | アルタ・ベラパス県  | Tactic (織) Q'eqchi' |  |  9歳女子 「ここにあるもの全て」 |